

コンテナ苗によって造林費用を削減できるか？

～ 育苗方法の確立とコスト削減効果の検証 ～

研究の背景・目的

コンテナ苗とは根鉢付苗木で(写真1)、専用の容器(写真2)を使用して育成したものです。コンテナ苗は一般的な裸根苗(写真1)と比較して、専用の植栽器具を使用して植栽できるため、効率的に植栽できます。また、根鉢があるため乾燥に強く、年間を通して植栽できます。時期を問わず植栽できることから、伐採後すぐに植栽することができ、地拵え(植栽前に林地を整地する作業)などの費用を削減することも可能です*。

しかし、コンテナ苗は現在のところ価格が高いため、安価に育苗できる技術の開発が求められています。そこで、優良なコンテナ苗を低コストで育苗できる技術を研究をしています。また、コンテナ苗の植栽方法の改良や一貫作業の効率性についても調査を行っています。

* 伐採から植栽までを連続して行うため一貫作業と呼ばれています。



写真1 スギのコンテナ苗(左)と裸根苗(右)

研究状況

○従来、コンテナ苗を生産するには播種してから1年半かかっていましたが、肥料の量の調整や温度管理によって半年で生産できるようになりました。現在さらに、生産効率を高める研究を行っています。

○コンテナ苗の植栽時間を調査したところ、裸根苗の概ね半分程度でした。コンテナ苗は植栽効率が良いことが確認されました。

○一貫作業によって地拵えの費用を1/3に削減できる事例がありました。

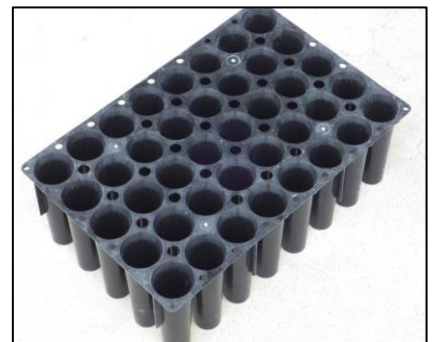


写真2 育苗容器

研究方法 ○育苗方法

肥料の調整による得苗率の向上を行う。2) 問題となっている病害虫の防除法を確立する。

○植栽効率

地形に応じた植栽器具の選択方法を検討する。

○一貫作業

一貫作業による地拵え・苗木運搬コストの削減効果の把握する。

研究成果の活用・今後の研究計画

優良なコンテナ苗を低コストで安定的に育苗できるようになります。コンテナ苗を使用することにより一貫作業が可能となり、低コストで再造林を行うことが可能となります。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 森林保護育成科

研究担当者 : 陶山大志・千原敬也

問い合わせ先 : 0854-76-3823

E-mail : suyama-hiroshi@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名 : コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の開発

